

### 留学生が瀬戸内海の安芸灘諸島を訪問(広島大)

広島大学は5月23日、同大短期交換留学プログラム(HUSA)留学生を対象とした「安芸灘とびしま海道・国際交流歴史ツアー」を企画し、14カ国36人が参加した。

「グローバル化支援インターンシップ」(国際センター国際教育部門・恒松直美准教授担当) 授業の一環として行われた同ツアーで、留学生は瀬戸内海に浮かぶ下蒲刈島・上蒲刈島・大崎下島を訪問。広島県呉市産業部観光振興課や地元観光ボランティアの案内により、地域に残るわが国歴史の資産や文化に触れた。

下蒲刈島では江戸時代、朝鮮通信使が来日した際の盛大な歓迎を再現した松濤園を見学するとともに、江戸時代の茶室を移築した白雪楼でお茶会を体験。また国際観光ガイドにも挑戦し、日本文化・歴史を来訪者に伝える学びの場ともなった。大崎下島の港町・御手洗では、呉市の職員と交流しつつ町並み保存地区を散策し、江戸時代の物流の歴史や文化を学んだ。同島の住吉神社や恵比須神社では、観光振興課の神垣進課長による地域にまつわる話に聞き入った。

今回のツアーは、留学生にとって、地域に残る日本文化を肌で感じるとともに、地域や呉市職員の温かいおもてなしの心に触れる思い出深い貴重な体験となった。



下蒲刈島「白雪楼」でのお茶会体験



上蒲刈島「県民の浜」輝き館前で

### 学生による合同留学体験報告会を開催(広島大)

発表するAIMS-HUプログラム参加学生

広島大学は、合同留学体験報告会をこのほど東広島キャンパス学生会館レセプションホールで開催した。広島大が提供するさまざまなプログラムによって海外留学(研修)を経験した学生によるもので、学生・教職員など71人が出席した。

8回目となる今回は、広島大短期交換留学プログラム(HUSA)、AIMS-HUプログラム、G. e. c. b. o. 海外インターンシッププログラム、STARTプログラムといった短期留学プログラムに参加した学生らが発表した。

全7プログラムのうち五つの発表は英語で行われるなど、研修で鍛えた語学力を発揮する有意義な機会ともなった。

発表はプログラム概要、志望動機、渡航先での生活、渡航前後の成長・変化などを中心に構成。STARTプログラムで米国へ留学した学生は「アメリカの学生の授業に対する積極的な姿勢がよい刺激になった。帰国後はさらに英語の勉強に力を入れるようになった」と、帰国後にも続いていく留学・研修の影響について語った。参加した学生からは「金額などの具体的な情報があり参考になった」「留学経験後の大学生活へのつながりが見えた」などの感想が聞かれた。

